

奈良・山本病院事件

(2009年6月発覚)

- ・大阪を中心に多数の生活保護患者
(行路病院の1つ)
- ・軒並み、心臓カテーテル検査
(一部は架空請求)
- ・経験のない肝臓手術で患者死亡
(手術の必要性に疑問)

* 雑誌「ホームレスと社会」
(明石書店) 4号参照

奈良・山本病院

傷害致死容疑 理事長ら聴取

不要手術で死亡か

診療報酬不正受給事件で逮捕、起訴された医療法人山本会(山本精一)と奈良県大和郡山本町の理事長山本文夫被告(51)が、6年、男性の入居者(当時57歳)に不必要な肝臓手術を行って失血死させた疑いがあるとして、奈良県警は9日、傷害致死容疑で山本被告らに手配し立ち会った。奈良県警は、6月頃、肝臓疾患で入院していた生活保護受給者の男性患者に、腫瘍の摘出手術を取らせた疑いが持たれている。

山本被告は、05年度の同病院事務長や医療機器販売会社社長と共謀、別の入院患者8人に対し、心臓カテーテル手術で血管を拡張するスプリントを入れた疑い、診療報酬約830万円をだまし取ったとして、詐欺罪で起訴され、今月17日に初公判が予定されている。

山本病院は7月に県に休

断。医療過誤による業務上過失致死容疑では、故意に傷つけ、死させた傷害致死容疑での捜査と踏み切った。

この手術では山本被告が執刀し、男性医師が助手を務めた。肝臓がんは、磁気共鳴画像(MRI)やコンピュータ1断層撮影法(CT)、血液検査などで判断する。県警が専門医ら約10人に男性患者のCT画像などを確認してもらったところ、「良性の肝臓血管腫で手術の必要はない」との証言を得たという。

山本被告は、05年度の同病院事務長や医療機器販売会社社長と共謀、別の入院患者8人に対し、心臓カテーテル手術で血管を拡張するスプリントを入れた疑い、診療報酬約830万円をだまし取ったとして、詐欺罪で起訴され、今月17日に初公判が予定されている。

入院医療の質の向上と退院促進の手だて

- 1 病院に対し、入院診療計画書とソーシャルワーカーによる支援計画書を作成して福祉事務所へ提出するよう義務づける
- 2 課題のある病院には、医師が出向いて個々の患者の治療方針を協議する。そのために専従の医師を雇うことが望ましい。
(診断名が正しいかどうかはレセプトをいくら点検してもわからない)
- 3 民間団体の協力も得て「患者サポーター」の制度をつくり、病棟を定期的に巡回して患者の相談に乗り、退院を支援する
- 4 路上からの救急医療を公的病院も担う。
民間病院間の連絡による転院を放置せず、公的病院に定期的に受け入れて、診断の妥当性を評価する

単身高齢者が入院しないで済むしくみ

- ・ 西成区の生活保護の多くを占めるのは単身の高齢者。これから高齢に伴う疾病と認知症が増えていく。
- ・ 身寄りもないことが多く、状況に流されていると、入院が増えて、医療扶助費を膨張させるおそれが高い。
- ・ 単身の高齢者が、できるだけ入院せずに地域で暮らせるようにする医療・介護・福祉の方策が、中長期的に見た大きな課題である。
- ・ 在宅なら訪問介護・ホームヘルプ・デイサービスが基本で、近隣の人の協力も必要だが、限界があるだろう。高齢者向けの施設やグループホームの増設も、あまり現実的ではないのではないか。
- ・ サポート型ハウスに基準を設け、必要な費用も出して、機能を充実させることがカギかもしれない。それでも入院より、はるかに安上がりである。

大阪社会医療センターの今後

- ・ あいりん総合センターの建て替えに関連して、社会福祉法人大阪社会医療センター附属病院(許可80床)が課題になる。診療所への縮小が提案されているが、はたしてそれがよい方向なのかは、検討の余地がある。
- ・ 市から年間3億円ほどの補助金が出ている。
- ・ 無料低額診療が減り、生活保護の割合が高まり、コスト削減も行ったので経営的には改善傾向にある。入院のほうが入収入になる。
- ・ 現状の課題は、薬剤師や看護師などスタッフの確保、医師の意欲の向上、医療設備の古さ(MRIもない)、受診患者が減少傾向にあること。
- ・ あいりん地域をめぐる医療状況を考えると、無料低額診療、結核医療のほか、他の医療機関の診療内容を評価する役割を含めて、公的な医療機関の充実が必要。できることなら救急医療もやれるとよい。
- ・ あいりんの中心部にある必要はない。移転すれば一般患者の受診も見込める。
- ・ 単独での移転のほか、別法人への経営譲渡も考えられる。済生会？